報徳@なう
発行人：田嶋 享

「食品を提供いただく企業と個人」

夏休みに入り、子供達の学校給食がその間なくなるため、昼食が満足に食べられない子どもが増えています。箱根町社会福祉協議会では弁当を用意されており、南足柄市社会福祉協議会では希望される家庭に食品の配布を行っていられます。コロナ禍が一向に収まらない中、フードバンクへの要望も増えていて、8月半ば現在では在庫が足りない状況になっています。

さらに食品を集めなくてはいけませんが、そのために今年4月から7月迄の4ヶ月の入荷実績を調べました。

提供企業・組織・個人	重量（kg）
全国食支援活動協力会	6,620
J-coin基金	3,441
食品企業	7,466
フードバンクかながわなど	5,057
セカンドリーグ神奈川（生協）	320
練り物の会社	77
野菜の提供	505
個人寄附（内、米247kg）	303
計	23,789

一番多かったのが、全国食支援活動協力会さんからの実績です。農水省支給の米4.2トンが入荷しました。また、J-coin基金による子ども食堂向けに米（2.6トン）とお菓子の入荷もありました。

また、地元の会社や個人、NPO法人からも増えてきました。野菜のご提供だけでも500kgを超え、生協からご提供の青果と合わせると1トン近くになり、野菜が買えない家庭に歓迎されています。感謝申し上げます。

しかし、食品メーカーからの提供はなかなか増えてきません。フードバンク活動にご理解がある企業からの提供は続いていますが、そのような企業へは各地のフードバンクからの要請が集中するので、当センターがいただける数量は限られています。

SDGsの動きが盛んになれば企業からの提供が増えると思いたくなりますが、現実は違います。企業は、SDGsの課題「フードロス削減」のために生産・販売過程での合理化を進めていますが、余剰品を無償で私たちになかなか渡してはくれません。販売機会の損失、低所得者に渡すことによるクレームの発生懸念などがあるようです。

ともあれ、これから年末に向けて知恵を絞って、いろいろな方策で食品を集めていきます。

「餃子の王将」さん お子様向け弁当配布

7月下旬、突然全国食支援活動協力会さんから連絡がありました。「餃子の王将」さんが、夏休みで学校給食がなくなり、十分な食事ができない子どもたちのために特別の弁当を用意して、各地の子ども食堂や母子会を通して無償配布していただくという企画です。全国にあまたある「王将」さんの店舗の近くにある子ども食堂がいただきに行きます。

しかし、具体的に小田原でこの企画を実施しようとするとなると大変でした。

私たちの活動地域には王将さんのお店は、小田原店、秦野店、平塚店、沼津店があります。まずそれらのお店の近くの子ども食堂や母子会をピックアップしました。問題は、子ども食堂に数十人も来ている中で、昼食にも困るような子供を具体的に把握するのは大変難しいということでした。結局、困窮家庭の子ども達を対象に支援活動を行なっており、食事も提供するようになった組織や、ひとり親家庭の情報をよく知っている「母子会」が具体的な配布計画作成の中心となってもらいました。ようやく8月11日に計画書を提出。実施は遅れて8月17日から9月13日までとなりました。我々の計画では全部で1300食配ることになります。



毎日、それぞれのお店に子ども食堂や母子会の方達がお店に20個から30個の弁当をいただきに行きます。添付のチラシには値段が入っていますが、**我々には無料です**。うまく終わることができれば素晴らしい成果となるでしょう。

このような斡旋も私たちの仕事です。

会費納入のお願い

令和3年度の会費納入のお願いを郵送またはメールでお願いしております。よろしくご協力お願い申し上げます。

私たち報徳食品支援センターは、食品メーカーさん等から食品を無償でいただき、それを生活に困っている方々に無償でお届けしています。無償の活動ですから、この活動からは収入はありません。

この活動を進めるには事務所兼倉庫が必要です。現在西大友の事務所で私たちは思う存分活動できています。4トントラックが2台は駐車可能ですし、また、母子会などが主催する配布会には、来場する自動車がたくさん駐車することが出来ます。建物の修理代などいろいろと維持費はかさみますが、活動拠点としてこれからも長く使いたいと考えています。これまでは、田嶋理事長の計らいで半額だけ負担させていただいていた事務所の賃借料金を今年度から全額負担することになりました。配送のガソリン代も必要です。冷凍食品を保管する冷凍庫も電気代がかかります。事務所の電気水道代も発生します。電話パソコン等の通信費も発生します。最低でも年間350万円の経費が発生します。また、この活動に参画している人たちはボランティアで、無償で活動している人がほとんどです。

会費収入は本当に貴重です。早速会員の皆様からご協力いただき、8月11日現在で65名の方から合計322千円集まっています。他に寄附金が141千円です。事務所の家賃や光熱費、雑費などに充てられています。皆様方の会費がなければ当センターは運営を継続していくことはできません。ご理解のほどお願い申し上げます。



トラックから荷下ろしをするボランティアの皆様

当センター副理事長本岡俊郎をご紹介します



「フードバンクを立ち上げたいと望んでおられた田嶋享氏の理想に共鳴して、二年前からお手伝いをしています。

人口約三十万人のこの地域で自立して運営できるまで頑張りたいです。私は現在七四歳。フードバンク活動に専念して十二年が過ぎました。食品会社で四十年働き、どうしても廃棄せざるを得ない食品が発生するのを体験しました。戦後昭和二十二年生まれで、日本が貧しい時代を体験しているので「もったいない」精神が染み付いています。日本では生活が苦しくて食品を求める人たちは、なかなか表面からは見えませんが、ここ小田原でも高齢者やひとり親家庭で対象となる方は大勢おられます。昨年からのコロナ禍で、すごく増えて我々の仕事もますます忙しくなっています。」ご本人の心情を吐露したものです。「昭和を駆け抜けた精鋭部隊の一員　色々な話を聞かせてくれ楽しくかつ勉強させてもらっています。」一緒に働く仲間の声です。

本岡さんは日本にフードバンクを定着された先駆者です。小田原に自費でアパートを借りて、報徳食品支援センターを実質的に運営しています。もちろん手弁当で報酬もありません。本岡さんの背景にはキリスト教の福祉・奉仕の考え方があります。

編集後記

お金の話は困ったものです。皆様のご援助を是非ともお願い申し上げます。

来月は、箱根の置屋松芳を特集します。女将さんは世界の観光地箱根の芸子さんの元締めです。箱根の置屋と報徳食品支援センターとの関わりは何でしょうか？

来月もよろしくお願いします。